
毒舌？な籬(かがり)ちゃんのほのほのオカ研生活

雪海

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

毒舌？な^{かがり}篝ちゃんのはのほの才力研生活

【Nコード】

N0354Y

【作者名】

雪海

【あらすじ】

この物語はRewriteの二次創作です。二次創作で且つ作者の技量が低いため、原作との矛盾、キャラ崩壊などが起きる危険性があります。もちろん矛盾やキャラ崩壊などはあまり起きないよう気を付けますのでそこまでは気にしなくても大丈夫……のはずです。

もし原作との矛盾が発生したとしても、ここはRewriteの世界とよく似た別の世界という認識でお願いします。ちなみに篝にはオリ主が憑依しますので、篝は完全に

違うキャラとなりますのでご了承下さい。ついでに籌は原作にはない能力を使ったりしますがそれについてもご了承下さい。長々と書きましたが、最後にこの作品の成分について。

この作品は主に日常成分が多めです。バトルやシリアスも少しは入るかもしれませんが、ほぼ日常がメインと思ってもらってかまいません。

以上の事を踏まえた上で本編をお楽しみ下さい。

この作品は作者のブログ、二次小説創作所でも公開しています公開の順番としては、とりあえずまず先にブログで公開して細かな修正を加えた上でこちらに投稿という順になります。

この二次小説はネタバレが多分に含まれています

9月30日(木) プロローグ的なもの

「あれ？ ここはどこだ？」

目の前には何故か木々が立ち並んでいた。
周りを見渡してみると同じように木々が立ち並んでいる。
周囲の景色を見る限りどうやらここはどこかの森のようだ。

「俺は確か普通に家で寝ていたはずだが……」

OK。ちよつと寝起きで頭がすつきりしないが今が異常事態
というのは分かる。一端落ち着いて何故こんな状態になった
のかを思い出してみよう。昨日は休日だったからRewriteを
一気に徹夜で終わらせた後……眠ったんだっけ？
まあ徹夜で眠気がピークに達していたからそのまま意識を
手放したんだろう。

うん、昨日の行動を振り返ってみても今の状況は全く理解できない
な。

とりあえずは現時点での問題点を整理してみよう。

1. ここがどこだか分からない
部屋で普通に寝たはずなのに何でこんな森の中にいるのか
さっぱり分からない。

2. 何でこんな場所にいるのか分からない
もしかして誘拐でもされたのか？
でも家は金持ちでも何でもなし、誘拐犯もいないみたい

だから違つかな。

3.この森がどの程度の広さか分からない
今いる場所からは出口は見えないからそれなり以上の大きさ
なんだろうけど……

よしっ！ 何が何だかさっぱり分からないということが分かったぞ
！！

とりあえずここに居ても何も分からないしまずはこの森を抜けだそ
う。

幸い向こうに川があるみたいだし川を下っていけば
きっと森から出れるはず。

さて、まずは川の傍まで行くとしますか。
何かがいるかもしれないし、抜き足差し足忍び足。

よし、何事もなく川に到着。
さて、後は川の下流に向かって歩いていくだけだな。

ふと川を覗いてみると川の水面に
黒いワンピースを着た少女が映っていた……

「誰だっ！」

振り返りながら声をかけるもそこには誰もいなかった……
見間違いか？ 確かに少女の姿が映ったように見えたんだが……

もう一度川を見てみるとまた黒いワンピースを着た
少女が川の水面に映っていた。

振り返る

誰もいない

もう一度川を見てみる

黒いワンピースを着た少女が映っている

あれ？ まさかとは思うが……

俺はある恐ろしい仮説を思いついたため、左手を挙げてみた。
すると川の水面に映っている少女も左手を挙げた。

ま……まだ何かの間違いかもしれん……

その後様々な複雑な動きを試みたが川の水面に映る少女の動きと完全に一致したため、仮説が正しいと認めざるを得なかった。

というかちよつと視線を下に向けたら黒いワンピースが見えた。

最初から下を向いてれば早かったな……

まあとりあえず色々と不可解な出来事が起こっているが

もう一度現状を確認してみよう。

1．ここがどこだか分からない

もう色々とおかしな事が起きすぎてどうでもよくなってきた。

2．何でこんな場所にいるのか分からない

上に同じ

3．何か見た目が Rewrite かがり の篝

さつき川に映った顔を見て分かった。

不可解な現象は正直これだけでお腹一杯です。

以上の状況を踏まえていくつかの仮説を打ち立てた。

1 . 実は俺は箒だった。
ない。これはない。

2 . これは俺の夢である。
ありえる。というか鉄板。だけどちょっと現実感が
半端ないからとりあえず保留。

3 . 俺が箒に憑依した。
どこの二次小説だよ！！って突っ込みたいところだけど
心のどこかではそうかもしれないという思いもあるから一応保留。

今の所はこのくらいしか思いつかないな…
まあ夢だった場合は目を覚ませばいいだけだし、最悪を
予想して行動した方がいいだろうし、憑依説を想定して動くとしよ
う。

……まずは寢床の確保からだな。

10月1日(金) 原作開始?

「篝さんマジでスペック高すぎ!」

おっと、あまりにハイスペックな身体についつい一人で叫んでしまった。

お久しぶりです。篝です。初めましての方は前話を読んでみましょう。

さて、メタな発言はこの辺で辞めておきましょう。

とりあえずあれから寢床をさがすついでにどんなことができるか色々実験を試してみたらこの身体のとんでもないスペックが発覚。

1・身体能力が物凄く高い

何かジャンプしたら普通に数十メートルは跳んでどの方向に街があるか分かった。それと試しに木を殴ってみたら、ばきっと木が折れた。

2・リボンが強い

あの後しばらくしたら身体がなじんだのか普通にリボンが使えるようになったので、試しに木にぶつけてみた。木が碎けた。

3・認識攪乱能力が便利すぎる

リボンが使えるようになったところ認識攪乱能力?も使えるようになった。もしかしてこの能力使わなかったらガーディアンとかにも発見されないんじゃないかな?

まあ認識攪乱能力は自分一人じゃ確認できないし、

後で再度実験してみるとしよう。

後分かったことといえば、どうやら夢じゃなかったみたいだ。丸一日くらいは経ったと思うけど全然目覚める気配がない。夢じゃないと分かった時はちよつと絶望しかけたけど、考え方を変えてみれば案外これはこれでありかもしれない。家族や友人に会えないのはつらいけど、超ハイスペックな身体が手に入ったし、Rewriteはかなり面白かったし。死亡フラグ満載だけどこの超ハイスペックな身体でばつきばきにへし折ってやんよ！

さて、色々と一人でできる確認も終わったし、とりあえずさつきジャンプした時に見えた学校っぽい所に行ってみようかな。まだここがRewriteの世界と決まった訳でもないんだし……
認識を攪乱……何か一々面倒くさいから不可視状態とでも名付けておこう。

不可視状態なら見つかることはないだろうし、さっさと行くとしよう。

と〜ちゃく！

まさかあの森から数分で学校まで行けるとは……

しかも周りに与える影響を考えてスピードを抑えた状態でこれだし

……
でも簞は星の化身な訳だしむしろこの程度の能力は妥当なのかな？

まあとりあえず学校には誰にも見つからず無事着いたんだけど、広い……

マンモス校っていつでも限度ってものがあるだろう……

こんなんじゃない瑚太郎がいるかどうかの確認だけでも一苦労だよ……

「もういい加減、我慢ならねえ……」

あれ？ 聞き覚えのあるこの声はもしかするともしかする？
声の聞こえる方へと駆けつけてみると不良？の吉野が瑚太朗に
食ってかかっていた。

もしかしてこれは丁度原作が始まった時期なのかな？

だとしたらラッキーだな。オカ研には入りたいと思っていたし。

瑚太朗がオカ研に入部しなかったら他のメンバーも入らないだろうし、

瑚太朗が入部するまでは原作から外れないように気を付けるとしよう。

「残念だよ吉野…親友同士で争うことになるなんてな」

おっと、考え事をしている間に話が進んでるな。

「テメエと親友になったつもりはねえ！そいつを今日、体に理解させてやる」

人も集まってきたみたいだし、ちょっと実験でもしてみようかな。

「きゃ〜。天王寺君と吉野君どっちが攻めでどっちが受けなのかしら！」

ふ〜。女言葉で喋るのはまだちょっと精神的にくるものがあるな……
まあ今の俺はどう見ても美少女だしその辺は
慣れていかないでしょうがないか。

「え……どうしても言わないと駄目か？」

瑚太郎が顔を赤くしながら言うと話を聞いていた数人の女子の顔から鼻血が！？

自分で煽っておいて何だけどもまさか鼻血を

出す人がいるなんて思いもよらなかつたよ……

それと瑚太郎。吉野をいじりたいのは分かるが、

これから吉野とのBLチックなものを妄想されるんだぞ。大丈夫なのか？

吉野いじりだけのために何か大事なものを失って

しまっているような気がするんだが……

まあそれはいいとして、瑚太郎は俺に気づいてないみたいだな。

中身が変わっているからなのかどうかは分からないが、

特に何もしていなければ瑚太郎には気づかれないようだ。

「おい天王寺、それじゃお前と俺が付き合ってるみたいじゃねえか！」

なら後の問題はガーディアンにいる俺を見ることのできる奴くらいだな。

ガーディアンの中でも不可視状態の俺を発見できる奴はほとんどいない

はずだし、今度暇な時に西九条先生辺りを尾行でもしてガーディアンの情報を入手してこよう。

「…放課後だ。忘れるんじゃないぞ」

「ああ、理解^{わか}っている」

あれ？ B L 方面に誘導したのに考え事をしている間に本筋に戻ってるよ。

ま、まさかこれが世界の修正力というやつか……
何て冗談は置いておくとして、この後は特に
イベントはなかったはずだし今日はもう帰るかな。

さて、住所不定無職な現在の状況を変えるためにも明日は奴の所に行くとしよう……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0354y/>

毒舌？な篝(かがり)ちゃんのほのぼのオカ研生活

2011年10月30日00時20分発行